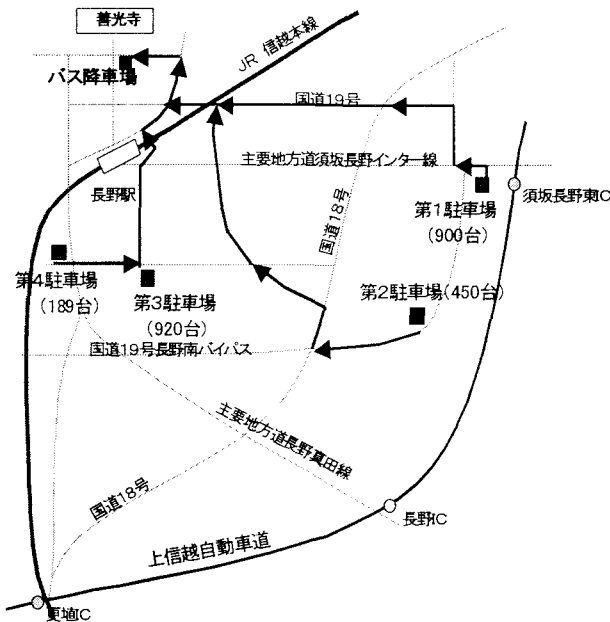


情報の入手過程を考慮した観光期シャトルバスへの乗り換え意思決定に関する分析

長野工業高等専門学校 正会員 柳沢 吉保
金沢大学工学部 正会員 高山 純一
長野工業高等専門学校 ○竹内加須実

1. はじめに

長野市の善光寺では平成15年4月6日から5月30日まで、約2ヶ月にわたり御開帳が行われた。御開帳期間中、とくに混雑の激しい土日には、善光寺周辺はマイカー規制が実施されるとともに、図1に示すように長野市周辺にある高速IC近辺の4つのシャトルバス臨時駐車場から、善光寺南にある大門交差点付近の臨時駐車場まで、シャトルバスが運行された。これらの交通対策は、ラジオやインターネット、高速道SA/PAや一般道でのチラシ配布と案内板を通じて情報提供されており、シャトルバスの利用を奨励し、善光寺周辺の渋滞緩和への協力要請が観光客へなされていた。以上をふまえ、本研究では、観光客がどの時点で、どのような内容の情報を入手し、シャトルバスへの乗り換えを決定しているか調査するとともに、シャトルバス利用意識と情報重要度を考慮したシャトルバス利用意思決定過程を明らかにする。



駐車場開設時間：午前8時から午後6時
(入車は午後3時30分まで)
駐車場料金：無料

図1 シャトルバス運行状況

2. 調査の実施状況

調査はシャトルバス利用者とマイカー利用者に分けて行った。シャトルバス乗り換え意思決定過程が分かるように自宅出発前と走行中での入手手段とシャトルバス利用決定位置を聞いている。調査項目を表1に示す。アンケート配布・回収状況は表2に示す。

表1 調査項目

	調査項目
共通	シャトルバス運行および交通規制実施案内に関する情報の入手内容、入手位置、入手手段と各情報の重要度など
シャトルバス利用者	シャトルバスの利用決定位置と利用理由、利用にあたって不便を覚悟した項目
マイカー利用者	シャトルバスを利用しなかった理由、シャトルバス利用に必要な情報、およびシャトルバスの運行条件に対する要望

表2 アンケートの配布状況

配布種類	配布日時	配布場所	配布枚数	回収枚数	回収率
バス	5/3,10	大門南	1500	301	20.1%
マイカー	5/10,24	善光寺北	922	215	23.3%

(注) シャトルバスは大門南降車場、マイカーは善光寺北および県庁通り臨時駐車場にて配布。

3. 入手情報とシャトルバス乗り換え決定位置の特性

紙面の都合上、高速道路を利用し、シャトルバスを乗り換えた観光客に絞って分析を行う。

(1) 出発前に入手した情報の比較

a) 入手手段の比較 (複数回答可)

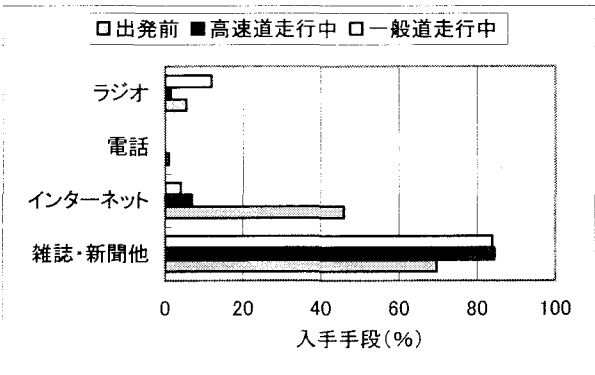


図2 各利用決定位置での情報入手手段

図2よりいずれの乗り換え決定位置でも、雑誌による情報入手が多い。しかし、出発前に決定している観光客はインターネットからの入手も多く、事前から積極的に情報を収集していることが分かる。いっぽう走行中に決定した観光客はインターネットからの情報入手は多くない。一般道走行中に決定した観光客は、ラジオでの入手が比較的多く、駐車場満空情報内容をぎりぎりまで確認している可能性がある。

b) 入手した情報内容の比較

紙面の都合上、グラフは省略するが、情報内容を集計した結果、いずれもシャトルバス利用案内は多く入手している。また、出発前に決定している観光客は、他と比較して善光寺周辺の交通規制情報を多く得ていることが分かった。マイカー規制情報による手段変更の必要性と代替手段としてシャトルバスが運行されていることを認識させることがシャトルバスへの乗り換えに有効であると考えられる。

(2) 走行中に乗り換えを決定した観光客の入手情報

a) 入手手段の比較(複数回答可)

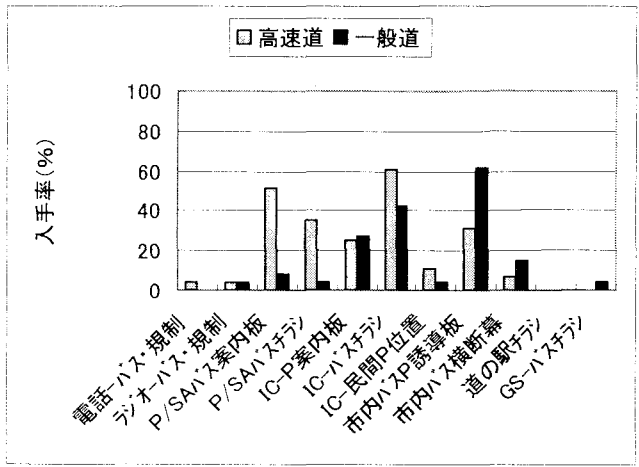


図3 走行中に得た情報の入手手段

図3より、高速道走行中に乗り換えを決定した観光客は、IC出口チラシ・SA/PA案内板から情報を得ている場合が多いことが分かる。一般道走行中に乗り換えを決定した観光客は、チラシ入手はやや少なく、ICを降りてシャトルバス駐車場誘導板から情報を得る場合が多いことが分かる。チラシの方が誘導板よりも情報量が多いことから、チラシの入手の有無もシャトルバス利用意思決定に影響を与えていると考えられる。シャトルバスへの乗り換えを促進するためには早い段階で、チラシなど入手の確実性の高い手段を導入することが考えられる。

b) 入手した情報内容の比較 (複数回答可)

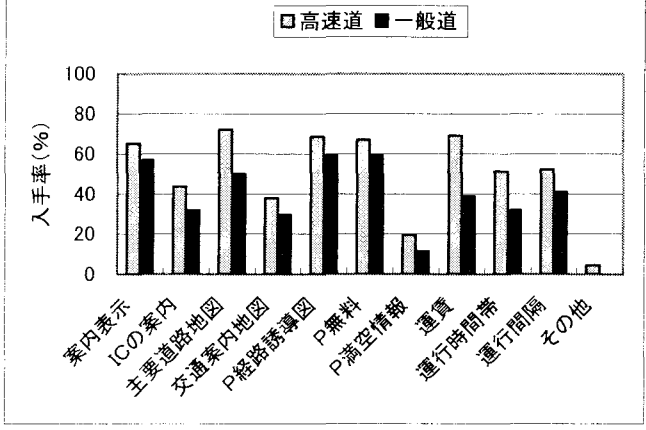


図4 走行中に入手した情報入手度

図4より、高速道走行中に乗り換えを決定した観光客は、IC出口チラシ・SA/PA案内板からシャトルバス利用案内・主要道路地図・駐車場誘導情報をはじめ、駐車場無料や運賃などシャトルバスの利用しやすさに関する情報も多く得ていることが分かる。いっぽう、一般道走行中に乗り換えを決定した観光客は、高速道路走行中に決定した観光客と比較し、全般的に入手している情報が少ないことが分かる。これはチラシによる情報入手が少ないことが原因していると考えられる。

4. シャトルバス利用意識と情報重要度に関する分析

シャトルバス利用理由と情報の重要度を集計した結果、「マイカー駐車場が満車かもしれない」「マイカーで渋滞に巻き込まれるのが心配」と回答した観光客が大半を占めた。ただし出発前に利用を決定している観光客は渋滞緩和への協力意識も高い結果となった。

また、情報重要度から高速道走行中に乗り換え決定した観光客はシャトルバス乗り換え案内情報を重視、一般道走行車の決定した観光客では交通案内、駐車場満空情報を重視していることが分かった。詳細は発表時に報告する。

5. おわりに

- (1) 手段変更を促す交通規制情報や代替手段に関する情報を合わせて、早い段階から情報を提供する。
- (2) IC出口などの多くの観光客が通過する地点で、チラシの配布や大きな誘導板の提示が有効であった。
- (3) 今後の課題として、今回の分析に基づき、シャトルバス利用理由と情報重要度、情報入手過程を考慮したシャトルバス乗り換え行動のモデル化を行う。